

# 長谷の大恩人 〃幸新作校長先生〃

大鳥 幸雄（葛川）

私は明治三十年代の生まれで、長谷小学校の年令とほぼ同年輩でして、このたびの記念祭については殊の外思い出多いものがあります。私が小学校入学の時は、ちょうど日露戦終末の時で、勝利の凱旋祝いに村民総出で学校を中心に、上下に別れ、万歳々と叫びながら提灯行列をしたものでした。

当時学校は、瓦葺平屋建てで、中央正面玄関に職員室、西に一・二年、東に三・四年の教室と宿直室、裏側に廊下、裏庭東西に便所があり、教室の窓は半腰障子で、教室の境は板戸で、二年の教室の後の上段に天皇・皇后両陛下の御真影が安置され、式典の際は境の板戸を開放して式場とし、校長先生はモ一ニング姿で教育勅語を奉読したものです。

学校の東隣には安藤宝五郎さん、西方上段に彦四郎さん、その下に草葺屋根の役場があり、その下に小五郎さんの家がありました。

私共一年生は三十九名でした。入学式の時に袴をつけている者は半分くらいで、洋服は校長先生の外に一人くらいでした。履物は藁草履か下駄で、持物は、ハナ・ハト・マメ等の読本と石盤・石筆・石盤拭くらいでした。教室には黒板と教材用の掛絵、テーブルの上には白墨箱に根ブチがあり、生徒の机・腰掛は二人一脚の木造でした。先生のテーブルの上の根ブチは生徒の居眠り、脇見、雑談、いたずらをした時にピシヤリとたたかれる道具。また白墨は、教壇の上からネライを定めてピユと投げて生徒を励ます用具でもありました。